



れいほううちゅう

靈峰中だより

第8号

2025年11月28日

靈峰中学校長

Tel: 45-3024

☆靈中のつどい テーマ「信頼できるなかまになるために」



11月18日(火)に靈中のつどいが行われました。最初に「部落問題を考える中学生の集い」のアピール文の紹介があり、講師として卒業生の梅田琥太朗さん、ファシリテーターとして人権政策課の川口素生さんをお迎えし、「信頼できるなかまになるために」と題してお話を聞かせていただきました。梅田さんは「小中学校で人権学習にしっかりと取り組んできたことが今の人権感覚のベースになっている」とや「おかしいと思ったことを放っておかげに、友だちや家族など誰かに聞いてもらうことで安心感が得られる」ことなど、身近にある人権問題についてわかりやすくお話し下さいました。

今年の分散会は1年生から3年生の縦割りのグループに、西柘植小学校6年生(壬生野小学校は学級閉鎖のため不参加)や地域の方、保護者の方にも入っていただき、お話を聞いて感じたことや、「いじめや差別をなくすために」自分にどのようなことができるか、ということについて交流し、その後の全体会では各分散会で話し合った内容の報告、感想の交流がありました。

これまでの靈中のつどいとは変わって、普段話したことのない人たちと人権についてみんなで考える時間となり、その場がとても温かい雰囲気に包まれました。今回実行委員として5人、グループリーダーとして12人が立候補し、17の分散会の司会と全体会での報告をしました。どの分散会も役割を精一杯果たし、またまわりも協力することができ、大きな成果を得ることができたと思います。以下におもな感想を掲載します。



『梅田琥太朗さんのお話を聞いて』

- 人権問題について考えることが差別やいじめをなくすことにつながると聞いたから、自分から率先して人権問題に向き合っていこうと思いました。答えがない問題なので、興味や関心を持って考え続けていきたいです。
- お話の中で「なんでも話せる人を見つけていくことも人権学習」と話されていて、自分は「Rの部屋」のような仲間はまだできていないように感じるから、中学校卒業後も続いてけるような仲間になっていきたいし、高校でも見つけていきたいと思いました。「もしも目の前に差別があったら絶対にそのままにしておかないと」というお話から、自分にはそこまでの信条みたいなものはないけど、そのままにしておくことは差別をすることと同じだと思うので、自分もそういう場面にあたら話し合ったり考えたりしたいです。
- 「自分じゃ抱えきれなかったり困っていることを言えるのが友達」と聞いて、そんな関係を築きたいと思った。自分も誰かの気持ちを受けとめられる仲間の一人になりたいと思った。いじめや差別をなくすために自分の周りから変えていきたいと思った。目の前でそんなことが起こったら注意をしたい。卒業するまでも、してからも、今日聞いて考えたことを忘れないようにしたい。
- 自分にとって本音で話せる居場所をつくる、そして相手にとっての安心できる居場所になるためにも、知り合う、話し合うことがとても大切だと思った。自分が聞いてほしい話も本音で話せるようになると思うし、逆に相手にもがまんせずに話してほしいから、自分もいつでも話していいよという雰囲気をつくり、話してくれたら「話してくれてありがとう」と言える人になりたい。

«分散会の感想»

- グループリーダーは初めての経験で緊張したし不安だったけど、最終的にはすごく安心して進められたから、やってよかったです。
- 分散会で自分がしゃべった後にそれに対する質問をしてくれた人がいて、そのときに安心できた。梅田さんの言っていた通りだと思った。地域の人が「いざ火事になんでも消化器の正しい使い方が分からなかつたら何もできない。差別やいじめを見ても人権の正しい知識を持っていないと何もできないから、今は正しい知識について考えることが大切」と話してくれて印象に残った。
- 分散会で、いじめや差別をなくすため、皆で話し合うことや本音で伝えられる関係になるのが大切だと気付いた。生活してて差別やいじめのような発言を友達がしてたら、それを止められる、自分がしてしまつたら止めてもらえるような関係になりたい。

«地域の方・保護者の感想より»

- 卒業生の体験を通して学び、子ども達の考えがしっかりしていて感動しました。私自身も学ぶ機会となり、社会において自分ができることはもっとあると感じました。生徒の皆さんのがそれぞれの思いを話し合える場をこれからも続けていただきたいと思います。
- こうして世代も学年も越えて人権について考える時間をもつのは素敵だなと思います。分散会でも一人ひとりがしっかり意見を持っていてそれを伝える力を持っていてすごい！今日帰つたら子どもたちにどんな話をしたか聞いてみたいと思います。自分の子どもたちにも信頼できる仲間、本音で話せる仲間がこれから一人でも多く作れるような大人になっていってほしいと思います。
- 梅田さんのお話を聞いて大人として親として何ができるのか考えさせられました。どんなことでも安心して話してもらえるよう、日頃から子どもたちとコミュニケーションをとつてきたいです。分散会では子どもたちが人権や差別に対し、しっかりした意見を持っていることに感心しました。日頃なかなか話すことのできない子どもたちと話す機会ができてうれしかったです。また子どもたちとふれあえる機会を増やしてほしいです。



☆あいさつ運動・ピンクシャツ運動の取り組みから

生活委員会が中心となり各クラスで「ピンクシャツ運動」について学び、あいさつ運動にとりくみました。ピンクシャツ運動はピンクのシャツや小物を身につけることで、いじめ反対の意思を示す取り組みです。いじめは絶対に許されないことで、みんなで安心して過ごせる学校や社会にしていけるよう、これからも啓発活動を続けていきたいと思います。



期末テストが終わりました。2学期の振り返りと締めくくりをしっかりしましょう！！